

◎新型コロナウイルス禍で考える日本の行方

◎第 22 回 安倍晋三元首相が残した「美しい日本」はどこへ

全国日本語学校連合会 研究員 對馬好一

第 26 回参議院議員通常選挙の^{とうかいひょう}投開票が 7 月 10 日に行われ、自民党が^{かいせん}改選前の 55 議席を大きく上回る 63 議席を獲得し、^{こうめいとう}公明党、^{いしん}日本維新の会、国民民主党などを合わせた、憲法改正に前向きだといわれる「改憲勢力」が、非改選議席を含め憲法改正の発議に必要な議席数の 3 分の 2 を大きく上回ったことは、報道された通りです。

自民党は選挙全体の勝敗を決するといわれる 32 の 1 人区で 28 勝したことが大きく取り上げられています。野党系候補が勝った青森、山形、長野、沖縄の 4 選挙区では自民党候補との差は極めて少ない接戦でした。それ以外の複数区（改選数 2～6）でも、維新が 1、3 位を取った大阪（改選数 4）を除き、いずれも自民党候補がトップ当選しました。複数区については、マスコミなどは詳しく取り上げていませんが、自民党が各地でトップを取ったということは、憲法改正を^{とうぜ}党是(政党の目標)とする同党への支持が全国で^{あかし}広がっている証でしょう。

ロシアのウクライナ侵攻に伴う国防意識の高まりもあり、6 月 22 日の公示前から、自民・公明の与党が議席数を伸ばすとの予想がされていました。しかし、日本社会は選挙の前と後とでガラッと変わりました。選挙戦最終盤の 7 月 8 日午前 11 時 30 分頃、奈良市内で^{ゆうぜい}遊説中の自民党の^{あべしんぞう}安倍晋三元首相が^{そげき}狙撃、暗殺された時から、社会が大きく変わりました。そして、「世界一安全だ」という日本の治安がそうではないということが実証されてしまいました。

政治の世界では、選挙前、選挙中にリーダーなどが命を落とすことがあると、「^{とむら}吊い合戦」と言われ、その人が所属する陣営が追い風を受けて^{やくしん}躍進することがよくあります。今回も事件後に

は、自民党がさらに大きく伸びることは容易に予想されました。

過去にも、平成 19（2007）年の長崎市長選挙で現職候補が狙撃され、死亡したときは、身代わり候補が圧倒的多数の票を得て当選を果たしました。また、暗殺事件ではありませんが、昭和 55（1980）年、自民党内の権力抗争から、野党が提出した内閣不信任案を可決された大平正芳^{おおひらまさよし}首相（当時）が衆議院を解散し、参議院選挙に合わせて同日選挙（ダブル選挙）に打って出ましたが、その選挙戦中に心筋梗塞^{しんきんこうそく}で急死すると、自民党が急遽一本化し、衆参両院とも大勝しました。

これらの事案の中で行われた民主的な選挙は、そうした混乱の中でも、言論戦が戦われ、適正な民主主義社会を守り通すことができました。

権威主義のロシアが民主主義社会の確立を目指すウクライナを侵攻しているさなかに起きた、安倍元首相暗殺事件は、民主主義の原点ともいえる国政選挙の真ただ中での出来事でした。山形県内を遊説中だった岸田文雄首相^{きしだふみお}は直ちに帰京し、全国で参院選候補者の応援に駆け回っていた閣僚を首相官邸に緊急招集し、2日後の投開票が無事に行われるように各省庁が万全を期すように指示を出しました。そして、安倍氏の死亡が確認されると「民主主義の根幹たる選挙が行われている中、卑劣な蛮行^{ひれつ ばんこう}が行われた。断じて許せるものではなく、最も強い言葉で非難する」と、涙ながらに語りました。

与野党各党も事件直後は選挙運動をいったん中止し、各党首が同様な談話などを出しました。翌日の新聞各紙も「卑劣なテロを糾弾する 計り知れぬ大きな損失だ」（7月9日付『産経新聞』1面「主張」）などと、言論を封殺^{ふうきつ}する暴力に言論で立ち向かう姿勢を鮮明にしました。

そうした観点から選挙戦は再開され、翌日（9日）の選挙運動最終日は各陣営とも予定通りの活動を展開しました。その結果、新たな事件は起きずに、無事、10日に投開票が行われたこと

はよかったと思います。ただ、多くの街頭演説の現場には金属探知機が導入され、弁士の周りにはコーンが置かれ、警察官や警備員が取り囲み、物々しい中での活動が行われました。選挙カーの上などでマイクを握る候補者や応援弁士たちは大変な決意が必要だったことでしょう。

狙撃された安倍元首相は衆議院当選 10 回、平成 18（2006）年 9 月から 1 年間、そして 24（2012）年 12 月から 7 年 8 カ月の計 8 年 8 カ月にわたり、首相としてこの国を牽引してきました。そして、一昨年夏の退陣以降も、立場上、発言をしにくい菅義偉前首相、岸田首相に代わって、世界の中の日本の役割、改憲の必要性などで積極的な発言をして世論に訴えてきました。その元首相への凶弾発射は、言論封殺ともいえる犯行だけに、マスコミや自民党関係者などは「民主主義、日本への挑戦だ」と捉えています。

しかし、奈良県警に現行犯逮捕された犯人は「宗教団体トップを狙うつもりだったがうまくいかず、安倍元首相が団体とつながっていると思ったので狙った」（10 日付『産経新聞』）などと供述し、「安倍氏の政策を批判したものではない」と動機について述べているといいます。言論封殺は断じて許せませんが、政治的思惑ではなく、個人的恨みから、直接の相手ではない安倍氏を逆恨みして殺してしまったのならば、あまりにも切ない話です。犯人自身が予想もしない、世界的な大きな損失を生んだこととなります。

バイデン米国大統領や、ウクライナ戦争をめぐる我が国と対峙するロシアのプーチン大統領はじめ、世界各国の首脳が相次いで弔意を示しました。国連安全保障理事会などでは黙祷がささげられました。それだけ、今の世界になくてはならない指導者の 1 人だったのでしょう。米国ではバイデン大統領が敢えて「日本の安全保障や日本人の連帯を不安定にするような重大影響はないと信じている」と発言するなど、大きなショックを受けているようです。

安倍晋三氏の政治的評価はこれからの歴史学者らが明らかにしていくものでしょう。

筆者自身が初めて安倍氏と会ったのは、昭和 59（1984）年 7 月、北海道・千歳空港の誘導路の上でした。自民党福田派（現安倍派）のプリンスだった安倍晋太郎外相（当時）に同行していたところ、安倍外相がターミナルに着く前に飛行機から降りてしまったので、慌てて機外に出たものの、私だけ誘導路に取り残されてしまいました。途方に暮れていると、1 台の車が救ってくれました。助手席に乗り込み、お礼を言おうと後部座席を振り返った時、そこに座っていたのが、祖父の岸信介元首相をそのまま若くしたような顔をした安倍氏で、父を補佐する外相政務秘書官だったのです。

札幌市内の目的地までの約 1 時間、親しく話をさせていただき、その日の安倍外相の札幌訪問の目的などを説明して頂きましたが、その後、別の機会でお目にかかった時に、晋三氏の方からこの時の思い出話をされていました。

また筆者は、平成 2（1990）年 1 月、安倍元外相が突如、ゴルバチョフ・ソ連最高会議議長兼共産党書記長との会見の為モスクワを訪問するのに同行しました。会見日程が決まらず、十数社の記者たちと一緒にホテルで缶詰めになっていました。暇だったので秘書として同行していた晋三氏に晋太郎氏への取材を申し込んだところ、2-3 日して私だけの単独インタビューを実現してくれたのは忘れられません。

こうしたお付き合いの中で、安倍元首相の大きな印象は、人の名前をすぐ憶えて忘れないことと、握手した手がものすごく柔らかかったことでした。父君（晋太郎氏）の後を継いで政治家になり、父が目指してたどり着けなかった宰相（首相）の座に就き、史上最長の長期政権の間、その手で、選挙民 1 人 1 人や世界の様々な指導者の手を握り、日本の国益のため奮闘されていました。

「美しい日本」を掲げて政権を担った安倍元首相の死後、各マスコミは、安倍政治の振り返り

報道を重ねています。憲法改正のための国民投票法を制定するなど、様々な政策を実現しましたが、その中でも最大の功績は、「自由で開かれたインド太平洋」を提唱し、日本、米国、豪州、インドにより、中国を包囲する「クアッド」を形成したことでしょう。この枠組みがあるからこそ、権威主義の中国やロシアが今の太平洋で行おうとしている横暴な動きを牽制し、抑え込んでいることは間違いありません。

それまで日米安保条約だけに頼っていた日本の国防が、これをきっかけに、豪州や欧州とも関係が深まり、英国、フランス、ドイツ、オランダなどの艦艇が日本に寄港、陸海空自衛隊と各国軍が共同訓練をするのが当たり前になり、このことがアジアばかりでなく、ウクライナの後方支援など、欧州情勢にも大きな影響を与えています。またドイツのメルケル前首相に次いで安倍氏が長くかかわった G7（主要国首脳会議）では、欧州諸国と米国の対立を仲介するなど、その存在感は、これまでの日本外交にはない大きなものでした。

国内では、安倍政権が唱えた異次元の金融緩和などのアベノミクスが雇用情勢を大きく改善し、経済の立て直しに成果を挙げたという分析が多く見られます。

コロナ禍で世界中が3年近くも閉塞状態に陥り、その中で起きたウクライナ戦争。それ以前とは全く変わってしまった世界を指導していくと見られていた安倍元首相の、病に倒れた父君と同じ67歳での退場は、世界のだれもが予想していませんでした。日本と世界の将来を展望する時、その不在は、世界史の方向性を大きく塗り替えることになると思わざるを得ません。